

■ 主な取り組み

当社グループでは、前述の目標の達成に向け、経営層が十分な情報に基づきタイムリーかつ広範な意思決定が行えるよう、オペレーショナル・リスク管理プロセスを継続的に改善していきます。また、リスクの種類に応じて、各地域もしくはグローバルレベルでオールハザード型BCPの策定に取り組んでいます。オールハザード型BCPは、特定のシナリオを想定した計画ではなく、あらゆる脅威や脆弱性に対し、サプライチェーンの寸断を防止すべく組織機能ごとに計画を策定します。

2021年には、危機管理/BCPに関する共通定義とフレームワーク、SBU指針を策定しました。また、ITセキュリティ機能によるサイバーリスクへの対応や、緊急時の報告基準の更新を行いました。

当社グループは、リスク管理と危機管理及びBCPの枠組み強化に引き続き取り組んでいます。

詳しくは、[Webサイト](#)をご覧ください。

Topic: 気候・自然関連リスク管理とTCFD・TNFDへの対応

ブリヂストングループはTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)に賛同しており、TCFD提言のフレームワークに沿って特定した気候関連リスクと機会を認識し、事業戦略への反映及び情報開示を進めています。これらのリスク及び機会への認識を踏まえ、カーボンニュートラル化及びサーキュラーエコノミーへの貢献促進に向けて環境中長期目標を策定し、バリューチェーン全体でのCO₂の排出量削減など、脱炭素社会への移行リスクの低減に取り組むと同時に、グアユールの事業化に向けた取り組みを通じた天然ゴム供給源の多様化など、適応策による物理リスクの低減についても取り組んでいます。

さらに、当社グループは**ビジネス・フォー・ネイチャー**や**企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)**への参加を通じた従来の生物多様性保全活動に加え、2022年3月より**TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)**フォーラムに参加しており、自然への影響及び依存度に関するリスクと機会を認識し、**ネイチャーポジティブ^{*1}**に向けた世界的な潮流を踏まえた複数の自然関連シナリオを考慮した評価を進めています。

*1 生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること

TCFD推奨開示内容への対応状況

推奨開示内容		ブリヂストングループの認識するリスクと機会/対応状況
ガバナンス	リスクと機会に対する取締役会の監督体制	<ul style="list-style-type: none"> 取締役会はカーボンニュートラル化やサーキュラーエコノミーへの貢献促進を含むサステナビリティへの取り組みの状況について定期的に報告を受け、進捗状況のレビューを実施
	リスクと機会を評価・管理する上での経営者の役割	<ul style="list-style-type: none"> ブリヂストングループ最高位の経営執行機関であるグローバル経営執行会議(Global EXCO)においてカーボンニュートラル化やサーキュラーエコノミーへの貢献促進を含む中長期の戦略・目標、実行計画の承認、計画の進捗を管理
戦略	短期・中期・長期のリスクと機会	気候変動による物理的リスクと機会 <ul style="list-style-type: none"> 台風の大型化、洪水や渇水の発生頻度の増加による事業活動中断のリスク 降雨パターンの変化に伴う天然ゴムの収穫不良による原材料調達に関するリスク 降雪量の減少により冬タイヤの需要が減少するリスク 熱帯地域に偏在するパラゴムノキ由来の天然ゴムの収穫不良に伴うリスク、乾燥地帯で育つグアヤール由来の天然ゴムの事業化による機会
	事業・戦略・財務に及ぼす影響	脱炭素社会への移行リスクと機会 <ul style="list-style-type: none"> 気候変動対策のための制度・規制などの導入が進む際、社会や顧客の急速なニーズ変化に対して研究開発費を十分な事業成長に結びつけることができない場合に、事業活動の制約やコストの上昇など、業績や財務状態に悪影響を及ぼすリスク(炭素税やCO₂排出削減義務・排出量取引制度、タイヤの低燃費性能に関する制度・規制、使用済タイヤのリサイクルに関する制度・規制など) モビリティニーズの変化による競争要因の変化に伴う機会(EV向けタイヤの需要増加、お客様のCO₂排出量削減に貢献するタイヤ及びソリューションの需要増加など) 使用済タイヤのリサイクルに関する規制地域拡大に伴うリサイクル事業の事業化機会
	様々な気候関連シナリオを考慮した組織戦略の強靱性	<ul style="list-style-type: none"> 複数の気候関連シナリオに基づいてリスクと機会を評価し、特定された重要度の高いリスクと機会について、すでに対応を始めており、今後も定期的な評価を行っていく
リスク管理	リスク識別・評価のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> グループ会社の事業規模や、管轄地域・事業の特性を考慮に入れながら、気候関連を含む、グループ共通のリスクに包括的かつ適切に対処するよう努めており、中長期事業戦略の実行に直接関連するビジネス戦略リスクについては、Global EXCO直下に年次リスク管理プロセスを設けることで管理強化を図る方法を検討。また、日常諸業務に係るオペレーショナル・リスクに関しては、チーフリスクオフィサー(CRO)が統括責任者として対応し、リスクへの対応計画を策定 毎年各地域及びグループ全体で直面する可能性のあるリスクを特定し、そのリスクに対してグループ全体だけではなく、事業・SBU・部門単位での責任者を明確にし、自律的かつ継続的にリスク管理を実施
	リスク管理のプロセス	
	組織全体のリスク管理への統合状況	
指標と目標	リスクと機会を評価に用いる指標	<ul style="list-style-type: none"> 気候関連リスクと機会を評価・管理する指標の一つとしてCO₂排出量の削減目標(Scope 1、2の総量削減、及び商品・サービスのライフサイクル・バリューチェーン全体を通じたCO₂削減貢献)を設定し、定期的にモニタリング 投資の判断においてもリスクと機会が評価できるよう、社内カーボンプライシングによるCO₂排出コストと削減効果を加味した投資判断を実施及び強化
	温室効果ガス排出量	
	リスクと機会の管理に用いる目標と実績	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル化及びサーキュラーエコノミーへの貢献促進に向けた環境中長期目標(2050年以降、2030年)を設定し、毎年実績を評価・開示

対応状況の詳細はWebサイトでご覧いただけます。

・TCFD対照表 ・有価証券報告書 第2「2【事業等のリスク】(4)気候変動に関するリスク」